

森林総合研究所（茨城県つくば市）では、小中学校の夏休み期間に合わせて7月28日（金）に一般公開を開催します。今回は、研究成果の紹介や体験型のイベントを、多数ご用意する予定です。なお、新型コロナウイルス感染症の拡大状況によっては、開催を中止する場合があります。イベント等の最新情報は、森林総合研究所のホームページでご確認ください。



昨年度の一般公開の様子

●シカは川沿いにやってきた？
100年ぶりに茨城県南西部に出現したシカの由来を推定

ニホンシカは明治時代から昭和時代前半にかけての強力な狩猟圧によって個体数が激減し、生息地が分



ミトコンドリア DNA 解析により明らかとなった茨城県南西部のシカ（黒点は採集地点）の出自。

断化されたことで、各地で地域個体群が絶滅していました。しかし、近年シカの分布域は急速に拡大しつつあり、日本の国土の約7割を占めるようになっています。茨城県では過去100年近くシカの生息は確認されていませんでしたが、2013年に茨城県と福島県の県境にある八溝山でシカの姿が記録されて以降、継続的に目撃情報が報告され、近年は茨城県南西部でも姿が確認されるようになっていました。そこで、福島大学共生システム理工学研究科の高木俊人氏（博士後期課程3年）および兼子伸吾准教授、森林総合研究所、茨城県自然博物館などの共同研究において、茨城県南西部で得られたシカの個体情報を整理することにも、周辺地域のシカも含めたミトコンドリアDNAの解析を行いました。その結果、茨城県南西部に出現した3個体はすべて1歳のオスシカで、いずれも日光地域のシカとミトコンドリアDNAの遺伝子型が完全に一致

しました。茨城の3個体はいずれも日光地域を源流とする鬼怒川の近くで捕獲・発見されており、日光地域の若いオスシカが河川敷や河川沿いに広がる緑地を利用して茨城県内まで移動したことが示唆されました。

（本研究成果は、2022年に野生生物と社会学会の会誌『野生生物と社会』10巻に発表されました）

森林総合研究所研究成果

●生育環境が同じでも
クロモジの香り成分は「十本十色」

楊枝や精油の原材料となる落葉低木クロモジに含まれる香り成分は、同じ生育環境であっても個体によって組成の違いが大きいことがわかりました。香り成分を多く含む個体を利用した栽培技術など、日本固有の



試料としたクロモジ (*Lindera umbellata*)

森林資源であるクロモジをより効率的に利用するために重要な成果といえます。

高級楊枝作りが受け継がれている千葉県君津市近辺の3地点に自生する複数の個体を対象に、同じ年の6月（成葉期）から10月（落葉期）にかけて継続的に採取した葉と枝（写真）に含まれる抽出成分を個体別に調べました。香りなどに関係するテルペノイド化合物群を分析したところ、生育環境が同じでも、化合物の種類や含有割合が個体によって異なっていました。また、多くの個体は季節の影響をあまり受けず、それぞれの特徴的な成分組成を維持していることもわかりました。

クロモジはこれまで、同じ地域に自生する個体にはどれも同じような成分が含まれると見なされてきましたが、実際には個体ごとに個性豊かであることを初めて確認しました。（本研究成果は、2022年11月に Journal of Wood Science オンライン公開されました）



P.3, 8, 14, 16, 18, 20



P.3, 8, 14, 16, 18, 20



P.3, 8, 14, 16, 18, 20



▲持続可能な開発目標 (SDGs)

森林総合研究所は、森林・林業・木材産業等の幅広い研究を通して、国連の持続可能な開発目標 (SDGs) の達成に積極的に貢献しています。該当する目標と記事のページ数は、上記の通りです。

プレスリリース等の最新情報はこちらから→

<https://www.ffpri.affrc.go.jp/index-r.html>

お問い合わせ

森林総合研究所

企画部 広報普及科 広報係

TEL 029-829-8372

Email kouho@ffpri.affrc.go.jp

